

3 シラバス活用上の工夫

(1) 活用方法を具体的に示したシラバス



ポイント 6

シラバスの具体的な使い方を示しながら学習のガイダンスを行い、年間を通じてシラバスを活用するように促します。

次の例は、シラバスの巻頭に具体的な使い方を示したものです。ここでは、使い方の説明と、「地理B」のシラバスとの対応関係を示しました。教師がシラバス活用場面を意図的に設け、生徒に学習内容や到達目標を確認させたり、学習の到達度を自己評価させたりして、年間を通じてシラバスを活用するよう指導します。

シラバスの使い方の説明

具体的な使い方

- 科目の次の単位数というのは、1週間での授業時数と考えてよい。
- 履修形態というのは、授業を受ける集団（クラス、選択者、グループ等）を意味する。ねらいは年間の目当て・目標のことである。
- 学習計画では学習内容と、そこでの到達目標が記されている。← 到達目標や評価の観点、学習のポイントをしっかりとつかみ、理解して授業に臨めば、前もって何をがんばればいいのかの目当てになる。

ここが肝心で、チェック欄の有無に関わらず、学んだことの確認をしよう。ABCでも○×でもいい。繰り返し利用しよう。

- 定期考査対策に
考査範囲は目安であるから、その都度正確な範囲を確認する。
- 日々の予習・復習に
課題・提出物については、期日厳守で取り組む必要がある。
先生の評価方法をつかんでおけば、対応の目安になる。

「地理B」のシラバス

科目 地理B	単位数 2	履修形態 クラス単位
教科書・副教材 地理B ○○社	学年・学級 2年理系	

1 学習のねらい

現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

学期	学 習 内 容	月	学習の到達目標	備考	考査 範囲	到達度 自己評価
第1 学 期	第1章 自然環境の地理	4	・人間と自然との関わりについて、具体的な事象をあげて説明できる。	白地図	中間 テ ス ト	
	第1節 自然と人間					
	1 地球の概観と人間の営み					
	2 環境への適応					
	3 環境へのはたらきかけ	5	・世界の自然環境を大まかに説明できる。 ・プレートテクトニクス理論について説明できる。 ・沖積平野の地形についてその要因を			
	4 誤った土地利用とその対策					
	第2節 世界の地形					
	1 地球の姿					
	2 大地をつくる力					
3 地形の変化						